

2026年6月16日発行

# 今村証券株式会社

商号等：今村証券株式会社

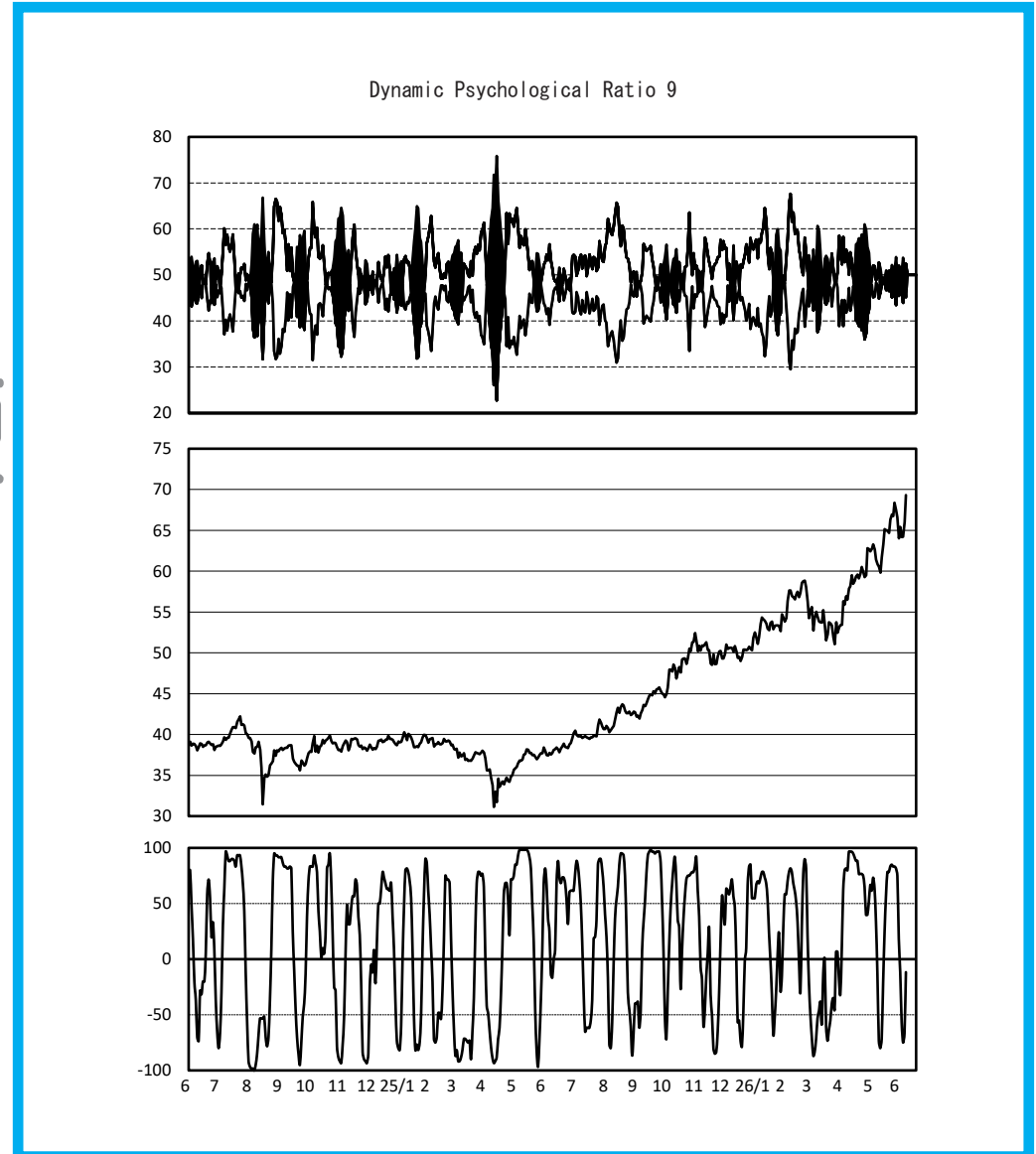
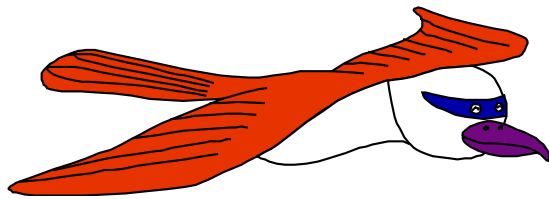
金融商品取引業者 北陸財務局長（金商）第3号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人資産運用業協会

制作責任者：営業推進部 調査課

## 情報シャトル特急便

第797号



上図は騰落銘柄数をベースとした独自のもので、黒の幅が拡大→買い場、白の幅が拡大→売り場

中図は日経平均株価

下図はRCI（9日ベース）で、 -80%ラインを上につき抜け→買い場

80%ラインを下につき抜け→売り場

# 大所高所

「銀河ヒッチハイク・ガイド」は地球を破壊された人間が宇宙を放浪する癖の強いドタバタ SF 小説で、イーロン・マスク氏が幼少期に強く影響を受けた本だという。Grok からの連絡メールの最後に” So long, and thanks for all the fish.” という言葉が入っていた。この言葉は地球破壊の危機を知っていたイルカ（作中では人間より賢い生物の設定）が、人間に残した最後のセリフだ。マスク氏は、この小説を AI のモデルにして Grok を作ったと公言している。他の AI と違って Grok で AI と会話するとユーモアと癖の強さを感じるのはそのせいだ。

さて、Grok を作った xAI はスペース X に 2 月に買収された。その後スペース X は時価総額 360 兆円規模の上場を果たし資金が潤沢になった。宇宙で軌道上に AI データセンター「AI1」を 100 万基！創る計画には当然資金が必要だ。マスク氏の AI 事業はアンソロピックなどの後塵を拝しており、巻き返しが急務。宇宙事業をテコに巻き返しをインフラ面から狙うのか？ ここにきて AI 企業の収益モデルが確立され始めただけに、この分野を収益化することで、最終目標の人類火星移住計画の運転資金とし、銀河ヒッチハイクを実現するのか。いずれにしても投資初心者には難しい銘柄で注意が必要。米国とイランの停戦合意にスペース X の上場が重なり、楽観的な相場展開が復活、日経平均株価は 7 万円台が目前に迫る。 (nil admirari)

# ただ一筋

昨日の日経平均は初めて 69,000 円台に乗せ、6月3日の高値 68,786 円を大きく上回り上値追いの展開となった。今週は日銀会合と FOMC が注目されるが市場は日銀の利上げを織り込んでおり、株価への影響は限定的とみられている。また議長が交代して初となる FOMC では金融政策が据え置かれる公算だ。中央銀行のイベント通過で不透明感が払拭され、しっかりとした地合いになると考える。今週の日経平均は米国とイランの停戦合意や 12 日に上場したスペース X の取引が好調だったことで、引き続きハイテク株を中心に上値を追う展開になるだろう。

私が入社して間もない頃、アマゾンが上場した。ネットで書籍を販売するシンプルな企業で赤字続きだったことを記憶している。しかし現在ではスマホを利用してあらゆる商品を買うことができ、翌日には受け取ることまでできる。我々の買い物の仕方が一変した。その当時には思いもつかないことができるようになった。スペース X も現在赤字だが、同様なことが起きるかもしれない。スペース X に限らず AI、半導体には夢がある。人類の進歩と革新を信じその実現を応援したい。そのような方にピッタリの投資信託（明治安田フィデリティ・セミコンダクター・ファンド）が昨日発売となった。

（塞翁が馬）

# 当たり屋見参

スペース X (SPCX) が先週ついに米ナスダック市場に上場した。AI の頭脳はすでに整備されつつあり、次に必要となるのは「その頭脳へ情報を送る通信」である。自動運転やドローン、ロボットなどリアルタイム性が求められる領域では、地球全域をカバーする宇宙通信が必要不可欠だ。衛星通信分野は新たな成長局面に入っているといえるのではないか。

その中で注目されるのが、AST スペースモバイル (ASTS) だ。同社は「どこでもつながる」世界を目指し、既存スマートフォンを衛星と直接接続する独自技術を持つ。専用端末を前提とするスペース X の衛星通信サービス「スターリンク」とは構造的に異なり、携帯会社のネットワーク補完に強みがある。そのため、Google、AT&T、ボーダフォン、楽天モバイルなど大手携帯・テクノロジー企業がこぞって出資し、提携網を拡大している。既存インフラと宇宙空間がシームレスにつながる世界を実現する有力銘柄として、今後の商業展開は大きな成長余地を秘めていると考えている。

(三月の空)

# 中堅の視座

日経平均は上昇を続けて6万9千円台に。上昇を牽引しているのは変わらずAI、半導体銘柄となっている。米イランの戦闘終結交渉がようやく合意に至ったことにより、ますます株式市場は盛り上がるのではないだろうか。

AI 関連銘柄には引き続き注目していきたいが、ここではAI 関連以外でまだまだ株価に上昇余地がありそうな三菱UFJフィナンシャル・グループ(8306)を取り上げたい。2026年3月期(前期)は国内金利の上昇などにより最高益を更新し、2027年3月期(今期)も最高益を見込んでいる。日銀が政策金利を引き上げる公算が大きくなっており、これも資金利益を押し上げる効果がある。株主還元にも期待できる状況であり、増配に加えて、5月18日~6月末まで自己株式取得(上限1000億円)を実施中だ。自己資本利益率(ROE)は今期12%程度を目指しており(前期実績11.3%)、好業績となればさらなる株主還元強化の余地が生まれる。AI 関連銘柄に比べて足元の株価上昇率は劣っているが、AI 関連銘柄の株価上昇が一服した際には資金が集まってくるのではないかと考えている。

(アダムベンジャミン)

# きらきら星

5日に発表されたアメリカの雇用統計で非農業部門の雇用者数が市場予想を大きく上回り、利上げへの警戒感が強まった。これを受けて日本の株式市場は短期的な調整局面となった。しかし、時価総額でトヨタ自動車(7203)を上回り国内トップになったキオクシアホールディングス(285A)を中心とした半導体相場が今後も続いていくと思われる。

そんな中、半導体関連以外で中長期的な視点で注目したい高配当銘柄を2つ紹介したい。

一つ目はウェザーニューズ(4825)だ。天気予報でお馴染みの会社だが、売上の過半は航海・航空気象事業等の法人向けであり、世界最大のデータ量を保有しAI気象予想システムを駆使した精度の高い予報に定評がある。船舶や航空機の安全な航行には欠かせないもので、世界シェアも高い。

二つ目は大和ハウス工業(1925)。ハウスメーカー最大手で、商業・事業施設の売り上げ割合も高い会社である。17期連続増配予定と株主還元にも積極的だ。イラン情勢による各種コスト高を背景に建設セクター全般の株が大きく売られ、大和ハウスの株価も2月の5,805円を高値に大きく下落している。

(G)

# アナログの俯瞰

今ホットな話題といたら、米宇宙企業スペース X (SPCX) の上場ではないだろうか。実業家であるイーロン・マスク氏が CEO を務め、12 日にナスダック市場に上場した。初値は 150 ドル、12 日終値は 160.95 ドルとなり、ともに公開価格 135 ドルを上回り、時価総額は 2 兆ドルを超えた。これにより、イーロン・マスク氏は史上初の「トリリオネア（1 兆ドル長者）」になった。

反面、業績や指標から見ると、スペース X は 2025 年 12 月通期の最終損益が 49 億ドルの赤字、26 年 1～3 月期は 42 億ドルの赤字に膨らんでいる。25 年の売上高に基づく株価売上高倍率 (PSR) は 100 倍を超え、エヌビディアの 23 倍、テスラの 16 倍を大きく上回る。期待が大きい分、株価変動も大きいと考えた方がいいと思われる。

今後、米国ではアンソロピックやオープン AI といった人工知能 (AI) 分野の注目企業が上場を予定しており、こうした企業は益々注目されそうだ。イーロン・マスク氏が CEO を務めるテスラ株を上場した 2010 年 6 月に初値で購入して現在まで保有していた場合、株価は 360 倍になっている。夢がある。 (Woodstock)

# アナリストによる北陸企業便り

(織田真由美)

## < 6155 高松機械工業 >

CNC旋盤が主力製品で、自動車産業向けが6割程度を占める。自動化技術が強みだ。2026年3月期連結業績は4期連続の減収、3期連続の営業赤字。2024年度までの受注低迷が影響したうえ、米関税政策の影響で米国向けがほぼ半減したことも売上高を下押しした。とはいえ、営業赤字の額は前の期に比べて縮小しており、想定も大幅に下回った。受注段階における利益確保の取組や原価低減活動の成果に加え、経費抑制・削減が奏功したことによって収益性が改善、黒字化が目前となった。

受注高が増加に転じたことも好印象だ。工作機械事業の受注高（部品含む）は前の期に比べて11%増の119億23百万円と増加に転じた。業界では2026年の工作機械受注額を2025年に比べて6%増の1.7兆円を予想している。自動車向けが回復傾向にあることで、今期も受注の増加が期待される。

受注が持ち直す中、今期業績は5期ぶりの増収、4期ぶりの黒字化が見込まれる。来期2028年3月期についても需要の堅調な伸びが続きそうで、今村証券では売上高160億円（今期比8%増収）、営業利益4億円、純利益は3億円、EPS28円を予想する。配当については、会社が「下限として年間配当額10円、配当性向40%程度」を還元方針として掲げることから、11円程度となると考える。

株価は450円～500円での推移が続く。受注が持ち直してきたことで業績回復が期待されるものの、バリュエーションは妥当な水準と考え、投資判断はNEUTRALとする。

# 分析名匠

キオクシアホールディングス（285A）の株価上昇が続いている。世界的な人工知能（AI）の普及に伴い、データセンター向けに主力の半導体メモリーの需要が急増し、同社の収益が急激に改善していることが背景にある。株価は2024年12月に初値1,440円を付けて上場した後、昨年7月頃から騰勢を強め、先週末12日には81,200円を付け、時価総額が44兆円超とトヨタ自動車を上回り、国内の上場企業で最大となった。

ここで視点を変え、大株主の「東芝」の存在に注目してみたい。キオクシアは元々、東芝の半導体メモリー事業が分社化した経緯があり、現在も東芝はキオクシア株の約16.1%を保有する大株主だ。キオクシアの時価総額が44兆円超となった先週末時点で、東芝が保有する株式価値は7兆円規模に膨らんでいる。東芝は2023年に経営再建のため、投資ファンド主導で、約2兆円で非公開化した。この際に多くの日本企業が出資を行なっている。つまり、東芝に出資した企業は、東芝を通じて間接的にキオクシア株を保有している。中部電力（9502）やローム（6963）、T R Eホールディングス（9247）などは会社規模に対して出資が大きく、東芝が再上場する際には財務面での影響が大きくなりそうだ。視点を変えた投資アイデアとして、頭の片隅に置いておいてはどうだろうか。

（枕は四季報）

\* 情報チャトル特急便は、投資家の参考となる情報提供を目的としておりますが、投資にあたってはご自身の判断でなされるようお願いいたします。

国内株式等の売買取引には、約定金額に対して最大 1.201750%（税込）（1.201750%に相当する金額が 2,612 円未満の場合は 2,612 円（税込））の委託手数料をご負担いただきます。

外国株式（外国 ETF、外国預託証券を含む）の外国金融商品市場等における委託取引にあたっては、売買金額（約定金額に外国金融商品市場における手数料と税金等を購入の場合には加え、売却の場合は差し引いた額）に対し、最大 0.990%（税込）の国内取次手数料をいただきます。外国金融商品市場での取引にかかる手数料、税金等は国（市場）により異なります。外国株式（外国 ETF、外国預託証券を含む）の売買、配当金等の受取り等にあたり、円貨と外貨を交換する際は、外国為替市場の動向をふまえて今村証券が決定した為替レートを用います。

国内株式、外国株式等は、株価など売買価格の変動、為替相場の変動などにより損失が生じるおそれがあります。

投資信託にご投資いただくお客さまには、銘柄ごとに設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資 1 単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。

商品ごとに手数料等及びリスクは異なりますので、その商品等の上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。